

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第32回◆

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	今回は一つの導水だけを独立して設ける。将来的にはまた別の分水施設という形で、従来はたしか4川導水の中で水海川に全部合流するという形になっていたかと思うんですが、今回はとりあえず一つの導水だけ別個独立につくるということをしたのは、どういう意味合いがあるのか、ちょっと説明していただけませんか。	なぜ、導水路の計画が1条から2条（水海川からの導水路と、足羽川・割谷川・赤谷川からの導水路）に変更となったのか？	3201
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	将来形ですれば2条案だけれども、整備計画期間の1条において絶対そういうことが起こらないようにしてもらわないと。危機管理の二重性というか、将来形はよくわからないけれども、整備計画の期間中でも危機管理という発想の物の言い方というのはできるのか。	河川整備計画期間中は1条（水海川からの導水路）ということだが、危機管理の面で大丈夫なのか？	3202
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	唯一穴あきのダムで形をあらわしたものが益田川ダムだと思うんですけども、やっぱり常時水をためておくダムと違って、いったん洪水が起きたときに水を止めること。ただ、その瞬間、何日か何カ月になるかわかりませんが、そういうことをするために、その後の環境を破壊してしまうのではないかと不安。それに関して実証されていないので、そうなるのかならないのかかわからないけれども、一応つくってしまったという状況だと思うんです。	洪水調節専用ダムでも、いったん洪水が起きればダムに水が貯まる。この湛水による環境への影響はないのか？	3203
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	私たち以前に委員会で、平成16年の福井豪雨の前でしたけれども、益田川の穴あきダムというものが一体どんなものかということを中心に確かめたいという形で要望を出して、今度行くかという矢先にあの雨がやって、それがすっ飛んでしまってだめになったという記憶があるんです。実際ここにいらっしゃるダム工事の関係の方は、多分それをごらんになっていらっしゃると思うんですが、その辺の不安ですね。実際、益田川のダムについて、そういう意味で精査されているのかどうかということ。	先行事例として、益田川ダムの状況を教えて欲しい？	3204
第32回流域委員会		○		治水 (河川整備)	益田川ダムが検証されていないというお話がありましたけれども、あそこの場合には、もともと益田川の上流に笹倉ダムというダムがありまして、比較的小規模なダムではあるんですけども、もう30年ぐらい管理をされて、同じような形で常時ためないダムとして運用されてきた実績があります。ですから、あの川としてはそういう実績を踏まえて、同じような形式であれば環境に対する影響等も比較的確認できているというプロセスを経て実際に益田川ダムはできているということがありますので、益田川ダムとしての実績はこれからですけども、同じような形式の経験というのは、それなりに蓄積されているということではないかと思えます。	益田川ダムの上流には、常時水を貯めないダムとして比較的小規模な実績がある。益田川ダムは、笹倉ダムと同じような形式であれば環境に対する影響等も比較的確認できているというプロセスを経てできている。益田川ダムの実績はこれからであるが、同じような形式のダムの経験というのは、それなりに蓄積されているのではないかと考えられる。	3205
第32回流域委員会		○		治水 (河川整備)	(オルデンダムとは) かなり川の状況、地形、地質、景観、風土、文化、だいぶ違うところもありますけれども、自然の状況で水がたまって2日間ぐらいで排水をするという、水がたまって出ていくところは基本的には同じですので、先ほど申し上げました益田川の上流の実績であるとか、こういう事例なんかを参考に、足羽川ダムについても、どういうダムのつくり方、最終的には貯水池の中の整備の仕方、管理の仕方あたりを今後詳細に検討していけばいいのではないかと考えています。	足羽川ダムについては、ダムのつくり方や、貯水池となる部分の整備の仕方、維持管理のあり方等を、これまでの事例を参考にしながら今後詳細に検討していく必要がある。	3206
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	国土交省の方であふれさせるような、要するに新しい減災のような方針を来年打ち出そうとしている時期に、うちの福井県の場合はまだ原案の段階なので、そういうことをもう一遍謙虚に考慮される必要性はないかという気もするんです。それが規模のことにもつながるのかなと思うんですけども、その辺のところのお考えをもう一遍きちんとたたくておきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。	国土交通省で打ち出している減災対策とは？	3207
第32回流域委員会		○		治水 (河川整備)	計画的にやっていくものとあわせて、減災対策も、当然これも公共事業、いろいろな意味で、国土交通省の範疇でなくても、河川の範疇でなくても、費用を財政的にかけてやっていく必要があることだと思うんです。それをあわせてやっていた結果、高さ96mのコンクリートの壁が、本当にこういう計画とあわせて減災、住みかえとか、いろいろなことを20年、30年かけてやっていく結果、言うならば無用の長物、負の遺産になって、結局ため込んだことによって起きる環境破壊だけが目立って、こんなには必要なかったというものにはならないんだろうかという思いが私たちはするんです。	減災対策を今後20～30年かけてダム整備とあわせて行うことによって、ダムは必要なかったということにならざる、もう一度謙虚になって考えてみることも必要である。	3208
第32回流域委員会	○			地域との連携 (地域住民対応)	池田の方たちにいろいろな説明会を今までやられた中で、常に出てくるのが苦渋の選択という言葉なんです。町長さんの言葉にもありましたし、その苦渋の中身ですね。私たち大野は、何十年前にダムをつくって、そのときも苦渋の選択であったわけですけども、その中身というのか、自分たちの思いを殺して、そうせなあかんかったのかという思い。苦渋のという漠然としたものではなくて、具体的にどういうふうな形でお聞きになっていますか。	ダムの説明会等で使われる「苦渋の選択」という言葉をどのように捉えているのか？	3209
第32回流域委員会		○		地域との連携 (地域住民対応)	本日をもって、原案を了として整備計画へ進むようにしていただきたい。地元地域の我々として、いつまでたってもめど立たない時間ではなくして、これからは苦しみがあるかも知れないけれども、一歩前進した苦しみに変えていきたいという願いを持っておりまして、委員各位におかれまして、十分なる御審議をして原案を認めていただくことを心からお願ひいたしまして、終わらせていただきます。	池田町の人々にとっては、ダム整備が進行することによって色々な苦しみも伴うかもしれないが、一歩ずつでも前進していきたい。	3210
第32回流域委員会		○		環境・利水 (環境)	この部子川の96mの堰堤ができることから上流域にまたがる森林の中で占める杉の割合が、ほかの地域と比べてどれほどの差があるのかということの数値がアセスの段階で全く出てこない間にこの案が出てきたわけです。それで、大量の流木がある場合には、また処理をしておっしゃられているんですが、池田地区やら美山地区の杉林の特殊性というのか、それを占める割合がどれだけのものなのかということを行政当局はどういうふうな認識なさっているのだろうか。特に2年前の流木の大半は杉林であったことにやっぱり注目をしていただきたいと思うんです。	福井豪雨のとき流木の大半が杉であったことから、環境影響評価をする場合は、ダム上流域の杉林の占める割合について調査するべき。	3211
第32回流域委員会		○		維持管理 (流域)	流木が流出した大きい理由の一つは、岩盤で表土が少ないところへ杉を植えた。そうしたところが、岩盤表土が少ないもので根の張りも弱かった。それが一つこけると、次から次へとこけて、枝をもって谷をふさいでしまう。一時的に水がそこでたまって、ぐっと一緒に流れてくるので、その辺の谷の近くの木を皆根こそぎ持って行ってしまふ。こういうのが現実で、結局、表土の浅いところに生えていた木が多いんです。根本的には非常に表土の浅い、下が岩盤のところへは余り植栽をしない方がいいのではないかと思います。	福井豪雨のとき大量の流木が発生したのは、岩盤で表土が少ない所に杉を植栽したため根の張りが弱かったことが原因だったと考えられる。	3212
第32回流域委員会		○		環境・利水 (利水)	危機管理を内容的に見ますと、これはやはり洪水に対する危機管理という形で内容が整理されているわけですけども、ここの中でも議論しました小雨・濁水、この濁水もやはり危機管理の中に当然入れていくべき問題だろうと思います。その水が少ない場合は、やはり水質の問題にも絡みますし、もちろん農業、漁業の問題にも絡んでまいります。重要なことですから、そういった危機管理という面からも、河川の水が少ない場合にも、いかに有効利用して、お互いが分かち合っていくかということも将来の河川行政においては非常に重要なことなので、ぜひこういったことも整備の中に入れていただければという気がいたします。	濁水は水質、農業、漁業等にも影響を与える。危機管理の項目の中に、洪水に関する取り組みのみならず濁水についても入れてみてはどうか。	3213
第32回流域委員会		○		治水 (その他)	河川整備を総合的に行うために環境学習という形で出前講座等も出ておりますが、やはり私は福井豪雨を風化させたいとは思いません。ですから、河川環境ということも大切です。それから、福井豪雨も含めた形で河川の流れはどういう特徴を持っているのか、あるいは洪水というのはどんなものかということもあわせて河川教育の推進ということも、こういった環境学習の中に入っていった方がいいのではないかと感じしております。	福井豪雨を風化させないことが大切であり、環境学習の中に河川教育の推進ということも取り込んでいったらどうか。	3214

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第32回◆

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第32回流域委員会		○	○	維持管理 (河川区域)	大事なポイントは、木を切るだけでは、放っておくと、また生えてくるんです。切るだけではだめで、そこに昔は水が頻繁にかかっていたわけです。その川の洪水の攪乱と言いますけれども、そのインパクトを受けて、言ってみれば河原が維持されていたわけですが、水が流れている河床が下がってしまって、底だけで水が流れる。木が生えているところはめったに水が乗らないという非常に格差ができてしまったところが一番の問題点だと思いますので、木を切るだけではなくて、水が流れているところと木が生えているところの高さの差をどういうふうに管理していくのが重要。	河道内の樹木は、ただ木を切るだけではまた生えてくる。管理していくには、その川の洪水の攪乱を利用していくことが重要である。	3215
第32回流域委員会			○	地域との連携 (住民意見聴取)	これから住民の意見聴取もされるということですが、やはり非常に長期的な計画なので、委員会でも全体的なイメージといますか、全体像がつかみにくいと思います。それは環境についてもそうですし、治水についてもそうだと思います。全体像をもう少しわかりやすく説明していただくと、具体的な数値だけではなく、その方がわかりやすいと思うんですが、いかがでしょうか。	足羽川ダムの整備は長期的な計画なので、住民意見聴取の時には全体像がわかるようにわかりやすく説明して欲しい。	3216
第32回流域委員会			○	地域との連携 (地域住民対応)	小規模な改修でここ10年や20年は対応できるのではないかとこの場所があるんですが、そういうときに、残念ながら予算的なものがつかなくなったりということがあります。国の方向としてNPOとの協働とかいろんな形でやっつけていこうというときには、多少の財源としてきちっとしたものを制度的に持っていたかないとできない部分がある。こういうことはいろんな地域で共通して出ている問題じゃないかと思うんです。その辺の対応をこの計画の中へ盛り込んでいただけたらいいのかなどか。	今後の方針として市民・NPO等と連携・協働していくのであれば、予算的な面も整備計画の中に盛り込んでいったらどうか。	3217
第32回流域委員会	○			維持管理 (ダム・堰)	維持管理に取り組んでいくとおっしゃる中で、既存のダムの堆砂の問題ですね。石徹白川は本当にすばらしい流量のあるいい川です。ただ、下の方に2カ所ダムがあるんですけれども、ここは砂が満杯です。そういう現在あるダムの堆砂対策はこれからどういう形でされるのか。今はとりあえず30年ということですが、緊急に取り組んでいってもらいたい箇所がほかの地域でもあるんじゃないかと思えます。その辺の対策をどういうふうに考えていらっしゃるのか、ちょっとお伺いしたいと思います。	現在あるダムの堆砂に対して、今後どのように取り組んでいくのか？	3218
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	このほかのブロック等を見ても、河道掘削とか引堤とか、現況断面と整備計画断面がいろいろ書いてあるんだけど、断面と延長距離からしたら相当の掘削がイメージできます。それは積算したらどれぐらいになるのか。それにどう対応するのか。使い方はあるのか。そういうものはちゃんと描き切れる代物なんですか。	河道掘削のときに発生する掘削土量はどのように処分するのか？	3219
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	県の人にはものすごいことをやるんだな、本当に20年とか30年でできるんだろうかと思っています。予算規模からして、直轄管理区間はまだわかりますけれども、はっきりいって大風呂敷と違うかなという不安もあります。	県管理区間で対象となっている河川は、今後20～30年で改修が可能なのか？	3220
第32回流域委員会	○	○		治水 (河川整備)	ダムをつくっても内水による浸水がなくなるわけではないですね。内水の浸水に関しても結構頻繁に起きることなんですね。やはりどうしてもダムの方に目が行くんですが、内水対策は、県の方が、田んぼなら田んぼを市街地化していくというプロセスの中でしっかりした排水河川を整備していかないといけなかったところを、市街化のペースが速くて追いつかなかったんだと思うんです。今、たくさんのメニューを見せていただいた中でも、やはり内水対策は早急にやっていただかないといけません。	ダムを整備しても内水被害は解消されないで、早急な内水対策をお願いしたい。河川改修以外の内水対策を教えてください。	3221
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	水質に関しては、「現状を維持します」という文言が多いんですね。「現状維持」と言われると、以前ここで「環境」について、昭和18年の河川の生態系という魚の環境が日本の原風景の中で一番いい時代だったというお話があったのですが、最近の時代の流れか、前々回あたりで「現状維持」というものがほんと打ち出されて、私はちょっとショックだったんです。それを考えますと、この「現状維持」という部分は、少し明るい展望を予測していただけたらありがたいなと思います。	水質については「現状維持」ではなく、今後の下水道整備の進捗や各自自治体との連携を考えていくのであれば、もう少し明るい展望を予測した部分を入れてもいいのではないかと。	3222
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	治水計画で、計画規模としては何十年に1度、最終目標としてはさらに何十年に1度という形だったんですが、計画規模の何十年に1度というのはここ30年ぐらいの話でしょうか、最終目標は何年後になるのでしょうか。	県管理河川の治水安全度の目標は、今後20～30年を対象にしたものなのか、それとも最終的なものなのか？	3223
第32回流域委員会	○			地域との連携 (地域住民対応)	この後いろいろな努力をされて予算化がされた場合、今も計画ができておりますけれども、それをさらに煮詰めていく必要があるかと思えます。そのときには、また同じような形で流域のブロックの方に集まっていたらいいので、さらにこういった形で具体的に進めていきますよという中で、住民の方との相互的なコンセンサスのもとに今後具体化していくのか。	今後、河川整備計画を具体化していくときには、住民と相互的なコンセンサスを図っていくのか？	3224
第32回流域委員会	○			治水 (河川整備)	各川に計画流量配分図があって、それを目指すわけですが、この計画流量配分図は整備計画マターのものなのか。もっと長期にわたっての整備基本方針というよりも、ここではほとんど整備計画段階での内容ですね。整備基本方針は、本川がかりのところでは出てきているんですけれども、そういうとらえ方でいいですか。	県管理区間の計画流量配分図は、長期的な計画ではなく、整備計画段階での計画流量か？	3225
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	多目的なものを、できるだけ慣行的な水の権利にとらわれることなく、6月とか9月とかの出水期には治水の方に水を大幅に回せるようにする。あるいは、もうちょっと弾力的にやれば、正常流量を確保できるようにしていく。言葉は悪いですが、福井県は「電力県」ですから、そういう点を大幅に考えた慣行見直しみたいなことを言うのは乱暴でしょうか。	既設ダムの治水容量、利水容量等を弾力的に運用することによって、慣行水利権にとらわれることなく、川に水を流すことができるのではないかと。	3226
第32回流域委員会		○	○	環境・利水 (生物・景観)	もともとアユは、琵琶湖あるいは他県から持ってきて放流するものじゃないんです。基本的には、日本海のきれいな水で育って上ってくる。しかし、現状の河川はほとんど横断工作物で仕切られていて途中で寸断されているために、かつては三国の河口から和泉村まで上りましたけれども、やむなくアユを個々に放流している。できましたら、遡上あるいは降下する魚が自由に行き来できるような形のものを、明日からすぐというのではなくても、例えば30年かかるなら30年かかっても結構ですので、そういったものの方の中に持っていらっしゃるなら、表現として「魚道」というのをに入れてほしいという気持ちです。	もともとアユは日本海から遡上してきていたが、今は河川横断工作物で仕切られているため、やむなく個々に放流している。河川整備計画には、魚が自由に遡上・降下できるように具体的に「魚道を整備する」という記述が欲しい。	3227
第32回流域委員会		○	○	環境・利水 (生物・景観)	魚道はそれなりのところにされていると私は理解しています。ただ、それが十分機能を果たし得ているかどうかの評価と改善は、当然必要だろうと思います。もう一つ、実は極めて大事なことは、魚道が連続することだけではなくて、例えばアユであれば、産卵して再生産されるような場が提供されているかということです。そういう場所の評価をして拡大し、育てていくことが極めて大事ではないかと思えます。	魚道は整備するだけでなく、それが十分機能を発揮しているかの評価と、機能を発揮していない所には改善が必要である。併せて、魚が産卵をして再生産できる場をどうやって保全・創出していくかも重要である。	3228
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	「川の水量の維持」といいますか、そういうフレーズが欲しいんです。「調整する」というのはわかりました。慣行水利権というの、私なりに勉強して、大変だなとは思いますが、とにかく「川に水を流しますよ」という、何かそういうものがここに欲しいなと。調整とかいろんなことを考えられているんだけど、私どもが一番望むのは「川に水を流しますよ」というふうなもので、何かそういうものがあつたらいいのになという印象を持ったのです。	川の水量の維持については、「調整する」というのもわかるが「川に水を流す」という積極的な表現にすることはできないのか。	3229
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	先ほど水力発電がクリーンで重要だというお話がありましたが、水利権の問題で、それこそちょうど更改時期、切り替えの時期に当たっている、例えば下荒井堰のようなところもありますので、川が川であるための流量の維持を確保できるようなことを明記してほしいなと。明記といいたまいますか、水利権更改のときに交渉してほしいなと思えます。	川が川であるための流量を確保できるように水利権の更新時に見直していくべき。	3230

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第32回◆

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	私は、権利につきましても、ある程度の範囲の中で弾力的な考え方をさせていただければ、また何かいい考えが出てくるかと思えます。「ここまで」とがちがちに決められてしまうと、利用する側としても、「ここまでで何とか」というお互いのやりとりがどうしても出てくるわけです。その辺で、ある程度見ていただけるならばとなれば、ゆずる部分も出てくるんじゃないか。そういうものがある程度見ていただければ、何とかかなりそうかなという気はします。	水利権については、利用者間である程度弾力的な考えをもって調整していくべき。	3231
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	私もたまたま水道を見て10年程度でございますので、昔からの水を見ているわけではございませんけれども、人工的なものに囲まれている水と自然の水とは、理化学的なものでは説明できませんけれども、感覚的に違うわけです。そういうことを、もうちょっとこれからの整備の中で考えていただければありがたいと思っております。	川の水は、人工的なものに囲まれて流れたときと、自然に囲まれて流れてきたときでは、いくら化学的な検査結果が同じでも、感覚的には違うものである。こういった要素も水質保全には重要である。	3232
第32回流域委員会			○	維持管理 (流域)	(福井豪雨のとき) なぜあれだけ流木が流れたかと考えますと、やはり木材価格の低迷によって山を管理する気持ちが薄くなってしまった、これが原因です。そこへ管理に対する国の助成金が安くなるばかりということが重なっていると思えます。山を放置したのが原因で、あれだけ大量の流木があったと思うんです。 もちろん木材価格は低迷していて、なかなか上がらないとは思いますが、意欲を持たせるためには、それに対する国の対応が必要であろうと私は思います。それと同時に、足羽川筋の山林山野を見ましても、まだ3割ぐらい草原地帯、何も生えていないところがあるんですね。これを広葉林に変える手だてをしてほしい。これを国の力でやってほしいと思えます。	福井豪雨のとき流木が大量に流出したのは山を放置していたからである。再び山の管理に意欲を持たせるためには国の対応が必要である。それと同時に、大雨が降る前に足羽川筋の空き地を広葉林に戻すことも必要である。	3233
第32回流域委員会			○	治水 (河川整備)	部子川ダムから足羽川の本流まで、私も行ってきたんですが、約3km近くあるかと思えます。この川が流れるスピードのために、その間の護岸工事が必要ではないかということです。また、これが足羽川に直角で入るんですね。ですから、その対岸に対しての護岸工事もぜひとも必要であろうと私は想像します。ですから、今後もこういうことを十分御検討、御研究されまして、その処置もっていただきたいと思えます。	足羽川ダムから足羽川本流までの区間については、洪水後の放流水に耐えられるよう護岸整備が必要である。	3234
第32回流域委員会			○	環境・利水 (利水)	私の隣の集落は部子川の水だけを頼りにして生活しております。農業用水も生活用水も、全部部子川だけを頼っている。これが今度は、放水によって濁水が流れてくることになりかねません。足羽川へ濁水が流れてくると、生態系、環境面、農業用水など、あらゆることに悪影響を及ぼすのではなかろうかと私は想像しております。今後、清流保護など、そういうことに対しましてもぜひとも対応をやっていただきたいと思えますので、この点も重ねてよろしく願いいたしたいと思えます。	旧美山町の集落の中には、農業用水や生活用水を部子川の水だけを頼りにしている所もある。ダムの整備によって水環境に悪影響が出ないよう配慮が必要である。	3235
第32回流域委員会			○	地域との連携 (住民意見聴取)	最も重要な整備計画は、「地域住民と密接な関わりがある河川については、住民とともに計画の検討、実施、見直しを行う等、積極的に意見交換を実施し、協働して川づくりを進めていきます」、私どもは本当にこれが整備計画で重要な点だと認識しておりますので、今度の住民説明会には、ぜひともこの項目について強調して説明していただきたい、報告していただきたいと思えます。	川の活動をしていて、「地域住民と密接な関わりのある河川については、住民とともに計画の検討、実施、見直しを行う等、積極的に意見交換を実施し、協働して川づくりを進めていきます。」が河川整備計画の中で本当に重要な点だと思う。住民意見聴取ではこの点を強調して説明して欲しい。	3236